

# 午前の部

学科名	授業名	概要	教員
言語文化学科 国際コミュニケーション コース	米文学概論	植民地時代から現代に至るまで、代表的な米文学作品を手がかりに、米国の文学の歴史と文芸思潮の変遷について学び、その特質を考察する授業です。	重迫 和美 教授
マスコミュニケーション 学科	コミュニケーションデザイン	現代人に必要とされる力として必ず上位に挙がるのが「コミュニケーション能力」です。自分の発信したメッセージが相手に「伝わる」ために、そして相手が発信したメッセージを円滑に「受け止める」ために、私たちが身に付けておきたい力を学び、表現することを学びます。	児玉 勝司 教授
子ども発達教育学科	乳児保育I	乳児保育の理念や役割、保育内容、環境構成、子どもの発達等を学ぶとともに、乳児保育のあり方を理論的に理解する。さらに、保育所や認定子ども園など、さまざまな施設で実践されている乳児保育の現状と課題をつかみ、子どもと保育者との関係性を基盤とした乳児保育を実践しようとする態度と意欲を養う授業です。	本岡 美保子 准教授
管理栄養学科	食品学	健康を支える食品に含まれている成分の種類と性質および調理・加工・貯蔵中の化学変化などについて学びます。さらに、食品のおいしさに関わる成分や機能性成分の科学的知識も食生活や健康の観点から学びます。	青山 康司 教授
総合生活デザイン学科	衣生活論	私たちが健康で文化的にも精神的にも満たされた豊かな衣生活を送るための基礎的な知識を概説します。また年々深刻化する環境問題について衣生活の観点から言及し、これからの衣生活の在り方や賢い消費者としての視点を持ち各自が自己省察できる力を持てるよう問題提起をします。	鈴木 直恵 教授
幼児教育科	領域健康の指導法	幼児の健康に関わる問題と遊びの重要性に気づき、自らの体験を通して幼児の多様な動きを引き出す環境構成や援助を学びます。また、幼児の発達や学びの過程に即した保育の構想・実践方法と保育を改善する長期的な視点を身に付け、保育構想の向上に取り組むことができる態度を育成する授業です。	長野 康平 講師
美術科	造形演習II	専門的に美術を学ぶ上での基礎を身に付ける授業です。各クラスに分かれて実施している授業をご案内します。	—

# 午後の部

学科名	授業名	概要	教員
言語文化学科 日本語文化コース	基礎ゼミⅡ	1年前期の入門科目、1年後期の概論科目、2年前期の「基礎ゼミナール」をふまえて、日本語文化コースの専門領域の中から自身の興味のある分野をひとつ選び、その分野の研究内容や研究方法についてさらに理解を深めていきます。なお、このクラスは、日本語文化コースの「日本語学・日本文学・日本文化」の領域のうち、【日本文学】の研究分野を対象としています。	九内 悠水子 教授
社会臨床心理学科	知覚・認知心理学演習 (ゼミ)	知覚・認知心理学の領域におけるいくつかのトピックに関して、実際に心理実験を行い、研究テーマの決定や実験計画の立て方、実験の実施方法、データ処理の方法、研究論文の書き方などを学びます。	吉田 弘司 教授
子ども発達教育学科	音楽Ⅱ	幼稚園・小学校教員、および保育士として身につけておくべき音楽的知識、音楽表現能力、音楽学習指導能力を育成します。鍵盤楽器奏法の修得を主たる目的とします。特に、音楽指導に直結する伴奏(子どもの積極的な歌唱表現を引き出す伴奏、子どもの表情を観察しながらの伴奏、模範唱をしながらの伴奏)の重要性が理解できるようにするとともに、実際の指導に役立つ演奏能力を育成します。	緒方 満 教授
幼児教育科	領域表現の指導法 A	幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点や関連性、また小学校の教科等のつながりについて学び理解を深めます。また、具体的な保育を想定した指導案作成や模擬保育、またその振り返りを通して自ら保育を改善する力をつけ、保育構想の向上に取り組むことができる人材の育成を図っていく授業です。	馬杉 知佐 准教授
美術科	美術科2年実習(日本画Ⅱ・洋画Ⅱ・工芸デザインⅡ・グラフィックⅡ・マンガⅡ)	2年間の学習の成果として制作する「卒業制作」のための授業です。それぞれのコースに分かれて実施している授業をご案内します。	—